

平成22年国勢調査 人口移動集計結果（移動人口の男女・年齢等） 福井県分の概要

人口移動集計は、5年前と現在の常住地との 地域間移動（人口移動）に関する集計であり、「5年前の常住地」を調査する大規模調査（西暦年の末尾が0の年）のみ結果が得られます。

（注）0～4歳については、出生後にふだん住んでいた場所を「5年前の常住地」とみなしています。前回（平成12年）までは、5歳以上人口を対象としていたため、時系列での比較には注意を要します。

○ 移動…「5年前の常住地」からの移動

- ・ 5年前も「現住所」に住んでいた人の割合は、全国3番目の高さ。
- ・ 移動人口のうち、同じ市町内で移動した人が最も多く、次いで県内の他市町から、県外から、の順となっている。

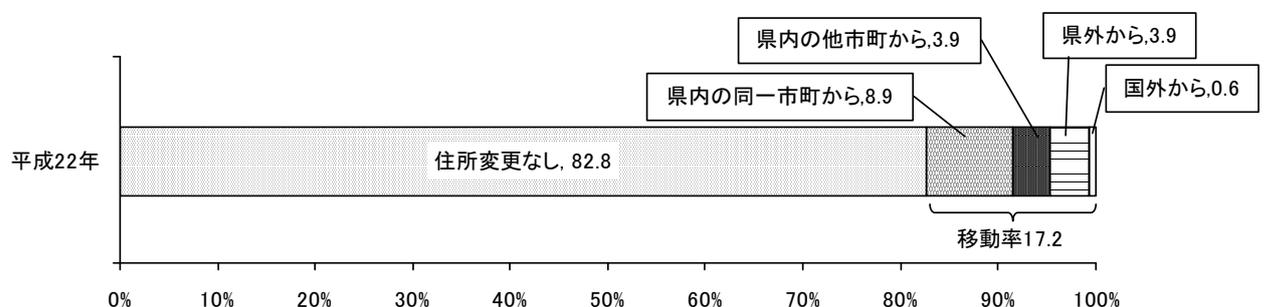
平成22年10月1日現在の福井県人口のうち、5年前も「現住所」に住んでいた人は652,299人で、総人口に占める割合^{*1}は82.8%となった。各都道府県の割合を高い順で見ると本県は3番目である。

また、5年前は「現住所」以外に住んでいた人（移動人口）は135,031人で、総人口に占める移動人口の割合（移動率）^{*1}は17.2%となった。

移動人口のうち、同じ市町村内で移動した人が69,696人（移動率8.9%）で最も多く、次いで県内の他市町村から、県外から、の順となっている。

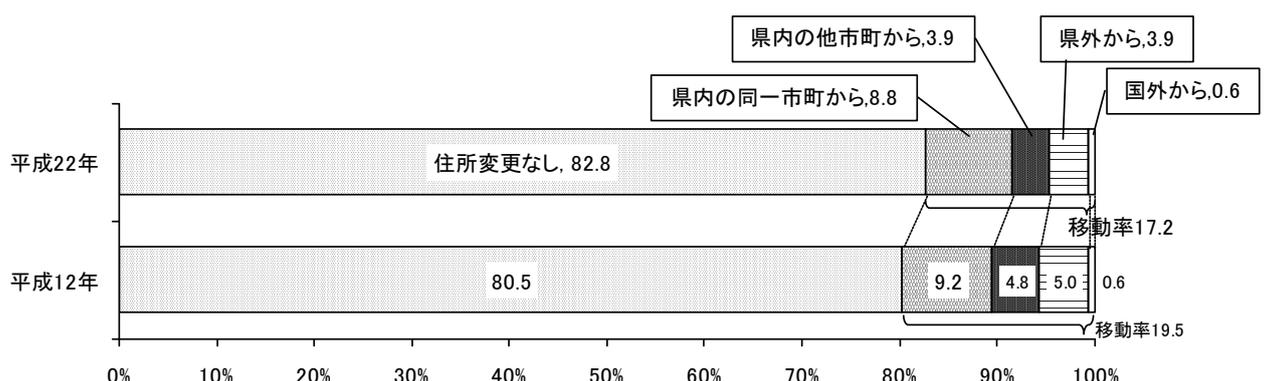
^{*1} 「5年前の常住地」が「不詳」の者を除いて算出。

図1 「5年前の常住地」からの移動状況別人口の割合（福井県：平成22年）



なお、5歳以上人口についてみると、前回（平成12年）に比べて、移動人口は23,852人減少、移動率は2.3ポイント低下となった。また、同じ市町村内で移動した人は5,951人減少（移動率0.4ポイント低下）、県内他市町村から移動した人は8,050人減少（同0.9ポイント低下）、県外から移動した人は9,586人減少（同1.1ポイント低下）となった。

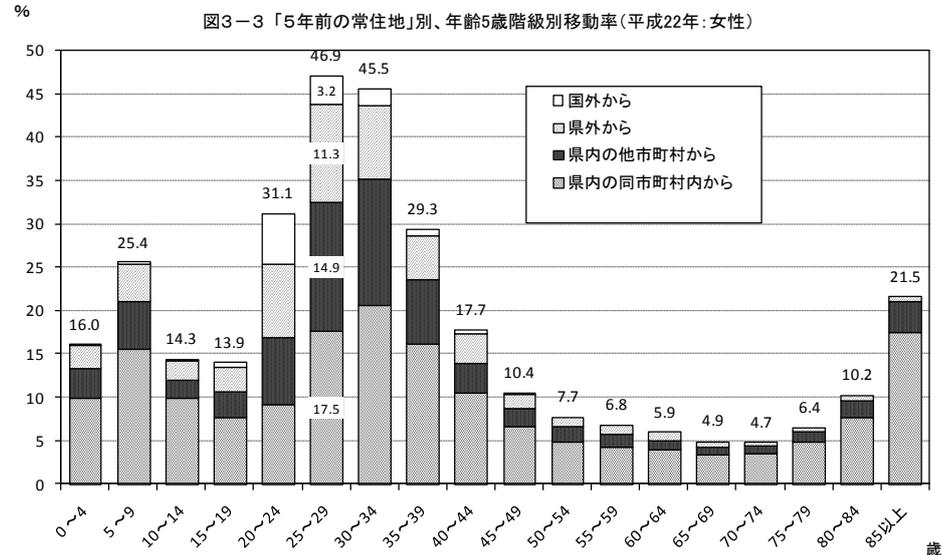
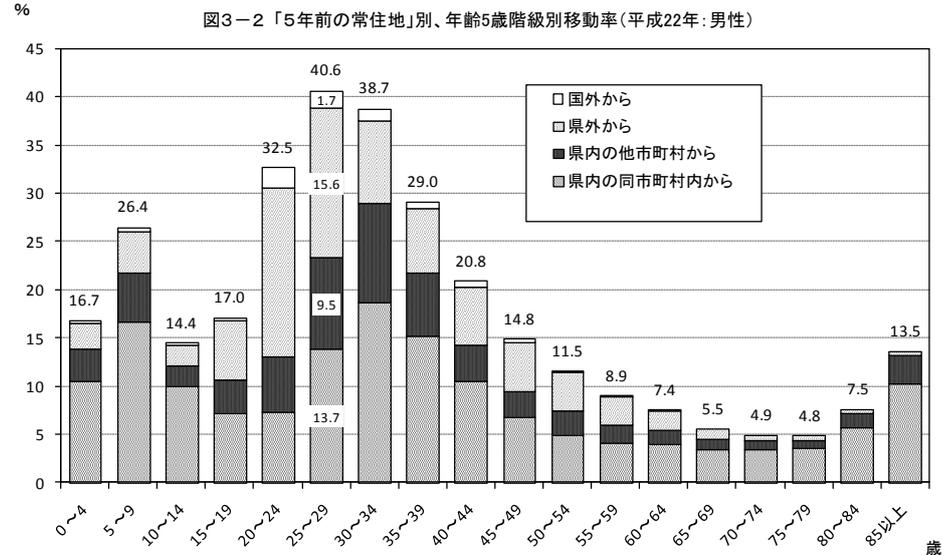
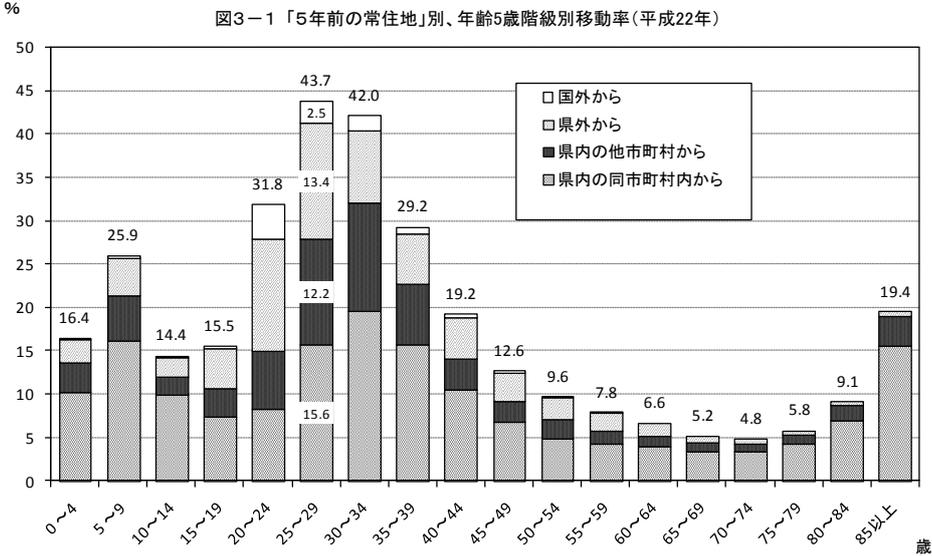
図2 「5年前の常住地」からの移動状況別 5歳以上人口の割合（福井県：平成12、22年）



移動率は、男女とも25～29歳が最も高い。（男性40.6%、女性46.9%）

年齢5歳階級別に移動率をみると、25～29歳が43.7%と最も高く、次いで30～34歳、20～24歳の順となっており、男女別にみても25～29歳が最も高い。

また、25～29歳の移動率を「5年前の常住地」別にみると、同じ市町村内で移動した人が15.6%と最も多く、次いで県外から、県内の他市町村からの順となっている。



○ 転入者・率^{※2}...「5年前の常住地」が福井県外で、「現住所」は福井県内

他都道府県から転入した人の割合は、全国7番目の低さ。

平成22年10月1日現在の福井県人口のうち、他都道府県から転入した人(転入者)は30,348人で、総人口に占める割合(転入率)^{※3}は3.9%となった。各都道府県の転入率を低い順で見ると本県は7番目である。

転入者を「5年前の常住地」別にみると、大阪府からの転入者が3,489人で最も多く、次いで、石川県(3,372人)、愛知県(3,032人)の順となっている。

転入率を年齢5歳階級で見ると、25～29歳の層が13.4%で最も高い。また、この層では、大阪府からの転入者が最も多く、次いで石川県、京都府の順となっている。(図4)

なお、5歳以上人口についてみると、転入率は3.9%で、平成12年の5.0%に比べて1.1ポイント低下となった。

※2 この記述での「転入」には、国外からの転入を含めない。

※3 「5年前の常住地」が「不詳」の者を除いて算出。

○ 転出者・率^{※4}...「5年前の常住地」が福井県内で、「現住所」は他都道府県

他都道府県へ転出した人の割合は、全国8番目の低さ。

「5年前の常住地」が福井県内だった人のうち、他都道府県へ転出した人(転出者)は36,766人で、総人口に占める割合(転出率)^{※5}は4.7%となった。各都道府県の転出率を低い順で見ると本県は8番目である。

転出者を平成22年10月1日現在の「現住所」別にみると、石川県への転出者が4,736人で最も多く、次いで、愛知県(4,168人)、大阪府(3,953人)の順となっている。

転出率を年齢5歳階級で見ると、20～24歳の層の転出率が27.5%で最も高い。また、この層では愛知県への転出者が最も多く、次いで石川県、大阪府の順となっている。

なお、5歳以上人口についてみると、転出率は4.7%で、平成12年の5.7%に比べて1.0ポイント低下となった。

※4 「転出」には、国外への転出は含まれない。

※5 「5年前の常住地」が「不詳」の者を除いて算出。

図4 「5年前の常住地」別福井県への転入者(平成22年)

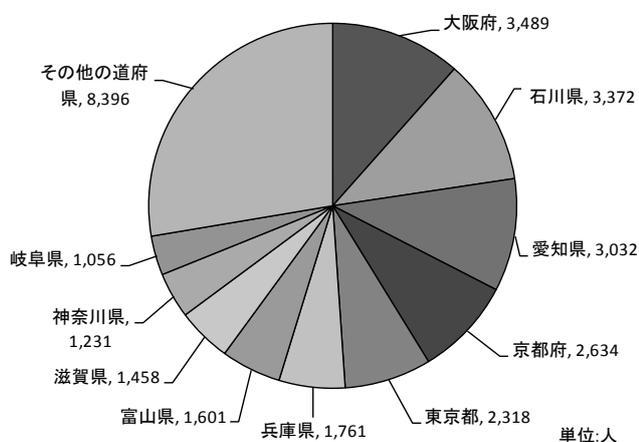
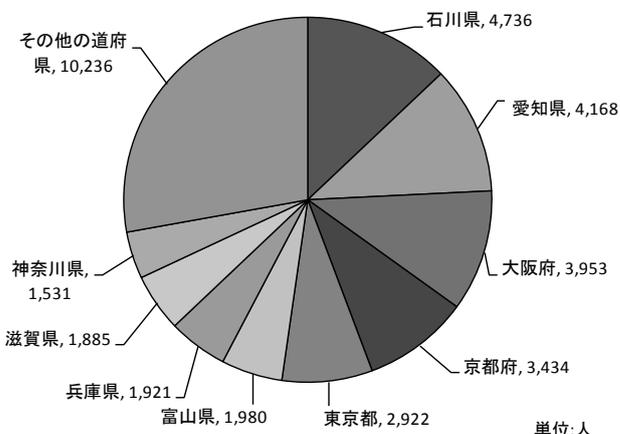


図5 「現住所」別福井県からの転出者(平成22年)



○ 県内市町の状況

5年前は「現住所」以外に住んでいた人の割合は、敦賀市が最も高い。

市町村別に移動率をみると、敦賀市が22.7%で最も高く、次いで福井市(20.4%)、高浜町(18.1%)の順となっている。(図5)

他市区町村から転入した人の割合は、永平寺町が最も高い。

市町別に転入^{※6}率をみると、永平寺町が12.3%で最も高く、次いで美浜町(11.4%)、高浜町(10.2%)の順となっている。

県内他市町からの転入率は、鯖江市、永平寺町および美浜町が5.8%で最も高くなっている。また、県外からの転入率は、高浜町が6.9%で最も高く、次いで永平寺町(6.5%)、敦賀市(6.2%)の順となっている。(図6)

※6 この記述での「転入」には、国外からの転入を含めない。

他市区町村へ転出した人の割合は、おおい町が最も高い。

市町別に転出^{※7}率をみると、おおい町が11.8%で最も高く、次いで美浜町(11.5%)、高浜町(11.3%)の順となっている。

県内他市町への転出率は、美浜町が7.6%で最も高く、次いで池田町(7.3%)、おおい町(6.7%)の順となっている。また、県外への転出率は、高浜町が6.4%で最も高く、次いで敦賀市(6.3%)、福井市(5.9%)の順となっている。(図7)

※7 「転出」には、国外への転出は含まれない。

転入超過の比率は、永平寺町が最も高い。

市町別に、転入者と転出者の差(転入超過)の各市町の総人口に対する比率(転入超過率)^{※8}をみると、永平寺町が2.3%で最も高く、次いで鯖江市(0.7%)、敦賀市(0.6%)の順となっている。低い順では、池田町が▲5.8%で最も低く、次いで大野市(▲3.6%)、勝山市(▲3.0%)の順となっている。(図8)

※8 「5年前の常住地」が「不詳」の者を除いて算出。

图5 市町別移動率(平成22年)

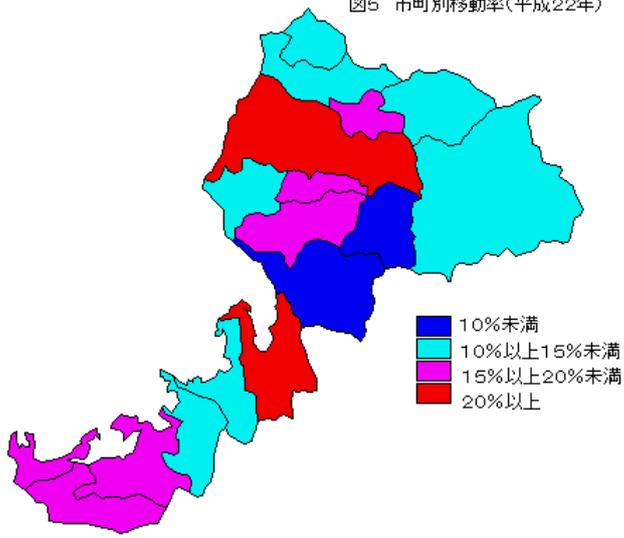


图6 市町別轉入率(平成22年)

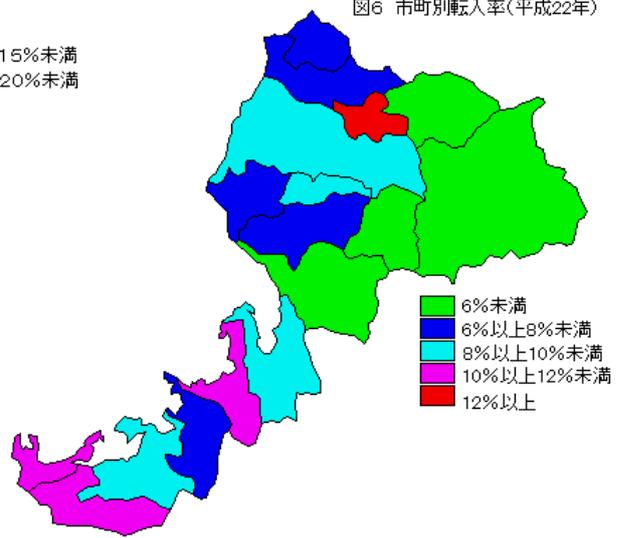


图7 市町別轉出率(平成22年)

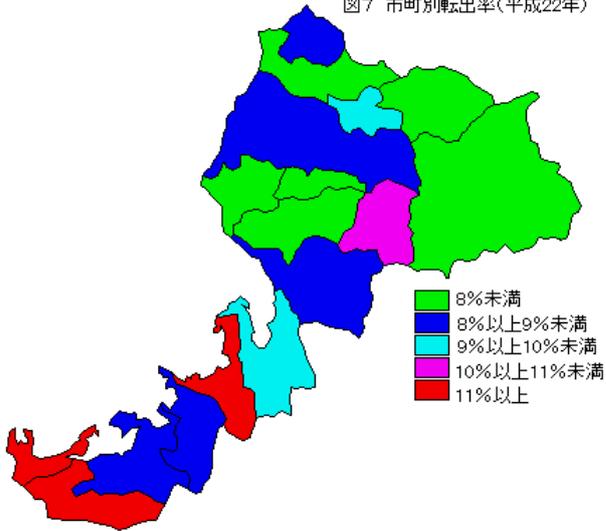


图8 市町別轉入超過率(平成22年)

